

今日はまず、灌漑についての研究を行っている農業開発研究センターを訪問し、その概要を聞きました。ここでは、雨が降った時に水がどうやって土中に浸透するのかなどを調べていました。今はちょうど雨季なので、乾季にはどのようにして散水を行っているのかも実際に見せてもらいました。東北部で農業を行うには水がとても大切なので、ここでの研究が農家の人たちにとっても、わかりやすく、やりやすいものになってほしいです。

次にパラゴム学習センターを訪問しました。このセンターはゴム生産のための教育を行っておりゴム樹液の採取方法等を教えています。センター概要の説明を受けた後、ゴムの木とそこで生産されているゴム製品の見学に行きました。施設についての説明を受けた後、ゴムの木やゴム製品の生産施設を見学しました。このセンターでは1ヘクタールに480本植えられています。1本の木から1年間に得られる収益は約300パーツということで、1年間に1ヘクタールからは約



ゴム製品を横に伸ばしてみました

144,000パーツ（日本円で約39万円）の収益が出るそうです。ゴムの木は種を植えてから収穫できるようになるまで約19~25年ほどかかりますが、収穫できるようになれば十分な収益を得られる作物です。ゴムの木の周りでは臭いは全く気になりませんが、ゴム製品を保存している倉庫ではゴム独特のにおいがしました。製品の作り方は3Lのゴムの樹液と2Lの水、さらに酸を加えて凝固させた後、2~3mmの厚さになるまで伸ばして6時間乾燥させれば完成です。製品は乾燥させればさせるほど色が黒っぽくなっていました。

昼食後、9月16日に農地改革局を訪問したときに説明を受けたJICAプロジェクトの見学に行きました。コンケン、バンコクとは違い水田、トウモロコシ畑が広がる土地であり、自分たちが想像していた農村風景でした。見学先の農家は、六十の農家の一つの農地改革グループのカーマさんという方で、周辺農家にJICAからの技術を伝授する役割を担っています。この地域では、もともと米、キャッサバを主に育てていたそうですが、それでは、収入が一時的なものになってしまうため、うまく貯蓄が出来ません。プロジェクトによるため池の掘削や自給のための野菜の生育を行うことで生活を安定することが出来ています。カーマさんが自らの農地改革を始めた当初、周辺農家からは冷たい目で見られていたそうです。しかし、改革を行う一心で成し遂げた成果により、周辺にもその大きな影響を与えました。実際に成果を上げた場面を目撃することでグループを形成し易くなります。また、自給が安定すると商品作物を育て、収入を増やすことができます。現在は四つ星ホテルと

契約し、グループで作物の共同生産を行い出荷しています。ここで重要なことは、生産計画を自分達で行い出荷することです。自給の達成から商品作物の生産、さらにそれに伴う生産計画といったように、一つ一つステップをクリアしながら、収入を増やし、安定した生活をする事が出来るようになるのです。しかしながら、もともとこの地域の土壌は肥沃ではないため、キャッサバを育てていました。有機物肥料の大量投入、土壌診断によるその土壌に合った作物の生育を行い、改善することがこれからも必要です。



JICA プロジェクトにて

村の現状として、自分自身驚いたことは意外にも、携帯電話、インターネットは普及しており、日本と同様の生活環境ということです。定置型電話よりも携帯電話が先に普及したという現実、発展は必ずしも同様の道を通らずとも可能であるということを感じました。直接現地の方のお話を聞きすることは資料を読みふけるよりも重要であることを改めて感じました。